

地域の特性や自然環境を生かした体験活動
阿東町立德佐小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：8学級
- 児童数：123人
- 教職員数：16人
- 活動の対象学年：全学年（123人）

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 阿東町は、島根県と隣接する山間地域にあり、米や野菜、りんごをはじめとする果物の栽培など農作物の生産の盛んな地域である。
- 本校は、平成18年度に旧亀山小学校と旧徳佐小学校が統合して、新生徳佐小学校となった。両校共に野菜や椎茸の栽培をする等、体験学習として農業生産活動に取り組み、今年度2年目を迎える。
- 地域には、伝承芸能として「はやしだ」という春先の田植えの時に踊る踊りがある。保存会が結成されていて、「お田植え祭り」、「さくら祭り」等に出演して祭りを盛り上げている。また、児童への伝承活動にも積極的である。
- 地域の方から、学校に隣接する畑を栽培体験のために借りることができ、昨年度から利用している。

③ 連絡先

- 〒759-1512
阿東町徳佐中3438番地
- 電話：083-956-0024
- FAX：083-956-0094
- 電子メール：
estks21c@c-able.ne.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 地域の伝承芸能に興味を持ち、継承していくことの価値に気づかせる。
- 「はやしだ」保存会のメンバーに踊りを習うことにより、地域の方々との交流を深める中で地域の伝承芸能に興味を持ち、継承していくことの価値に気づくと共に、ふるさとを大切にしようとする心を育てる。
- 野菜作りや花の栽培の活動を通して、働くことの意義を考えたり、作物を作ることの苦労や大切さを感じる心情を育てる。
- 阿東町の自然に触れ合うことにより、ふるさとの自然の厳しさ・すばらしさを感じる心情を育てる。
- 高齢者の方々や幼児と交流することにより、人を思いやる気持ちを育てる。

② 主な活動内容と教育課程上の位置付け

- 文化や芸術・交流に関する体験活動
・「はやしだ」を踊ろう
4・5・6年(総合的な学習の時間)
- 勤労生産に関わる体験活動
・花、野菜作りに挑戦しよう
1年～6年(1・2年生活科、3～6年総合的な学習の時間)
- 自然に関わる体験活動
・スキー教室 5・6年(体育、遠足宿泊的行事)
・野外教室 5・6年(総合的な学習の時間、遠足宿泊的行事)
- 交流に関わる体験活動
・高齢者との交流6年(総合的な学習の時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

阿東町や徳佐小学校区の自然環境や人的環境の特色、子どもの実態を生かしながら、自然体験活動や勤労生産活動、交流体験活動などに取り組むことを通して、人を大切にし、ふるさとを愛する心の育成を図る。

※ 特に重点を置く活動

- ① 地域の伝承芸能に興味を持ち、継承していくことの価値に気づかせる。
- ② 「はやしだ」保存会のメンバーに踊りを習うことにより、地域の方々との交流を深める。
- ③ 地域行事に参加し、踊ることで、学校生活とは質の異なる自己実現を図る。
- ④ 野菜作りや米作りの活動を通して、働くことの意義を考えたり、作物を作ることの苦労や大切さを体験したりする。
- ⑤ 阿東町の自然を生かし、秋季の野外活動教室や冬季のスキー教室を行い、ふるさとの自然の厳しさ・すばらしさに気づかせる。
- ⑥ お年寄りの方々と交流することにより、お年寄りを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 全体の指導計画

実施学年	実施する体験活動の概要	予 定 日 時 ・ 期 間 (単位時間数)	教育課程上の位置付け	活動の場所	指導者・補助指導員等
1年	○勤労生産に関わる体験活動 「花を育てよう」	5月～3月 (20時間)	生活科	校内	担任
2年	○勤労生産に関わる体験活動 「野菜を育てて、収穫祭をしよう」	5月～3月 (10時間)	生活科	校内	担任
3年	○勤労生産に関わる体験活動 「花や野菜を育てよう」 ○交流に関わる体験活動 「昔のくらしや干し柿作り」 ○その他の体験活動 「まちをたんけんしよう」	5月～3月 (5時間) 3学期 (10時間) 1学期 (10時間)	理科・総合 総合・国語 社会	校内 校内 校地回り	担任 担任 担任
4年	○勤労生産に関わる体験活動 「野菜を育てよう・ぎんなんプロジェクト」 ○交流に関わる体験活動 「はやしだ」	5月～11月 (30時間) 1月～3月 (8時間)	総合 総合	校内 校内	担任・地域の方 担任・はやしだ保存会会員
5年	○勤労生産に関わる体験活動 「イチゴの栽培」 「サツマイモ・ハウスイチゴの労作」 ○勤労生産に関わる体験活動 「水田耕作体験」 ○交流に関わる体験活動 「幼児との触れあい活動」 ○交流に関わる体験活動 「はやしだ」 ○自然に関わる体験活動 「野外活動教室」 「スキー教室」	4月～6月 (6時間) 5月～10月 (10時間) 5月～10月 (20時間) 3学期 (10時間) 通年 (15時間) 10月 (18時間) 1月 (5時間)	総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合	イチゴ農家 地域内 徳佐保育園 校内・町内 十種ヶ峰青少年野外活動センター	担任・農家の方 担任・農家の方 担任 担任・はやしだ保存会会員 担任・野活職員 〃
6年	○交流に関わる体験活動 「お年寄りと交流しよう」 ○ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動 「ふるさとクリーンプロジェクト」 ○その他の体験活動 「謝恩会を開こう」 ○勤労生産に関わる体験活動 「ジャガイモでカレーを作ろう」 ○交流に関わる体験活動 「はやしだ」 ○自然に関わる体験活動 「野外活動教室」 「スキー教室」	1～2学期 (23時間) 1～2学期 (29時間) 3学期 (20時間) 1学期 (4時間) 1～3学期 (9時間) 10月 (18時間) 1月 (5時間)	総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合 総合	校内 町内 校内 校内 校内・町内 十種ヶ峰青少年野外活動センター	担任 担任・地域の方 担任 担任 担任・はやしだ保存会会員 担任・野活職員 〃
すくすく 学級	○勤労生産に関わる体験活動 「野菜を育てよう」	1～2学期 (10時間)	生活科・総合	校内	担任

2 活動の実際

(1) 校内研修テーマとの関わり

一年次は、本校の特色である地域伝承芸能“はやしだ”への取り組みを中心に自然体験活動や農業体験活動、地域のお年寄りや幼児との交流活動等を行った。

二年次は、これらの活動を継続しながら、子どもたちが目的や課題意識を持って体験活動に臨むことによって、自らの考えや思いを友達同士あるいは地域の方々との交流の中で伝え合う力を育成しようと研修主題との関わりを強めて全校体制で取り組むようにした。

研修主題

『自分の思いや考えを生き生きと伝え合う子どもの育成～豊かな体験活動を通して～』

校内の授業研究では、体験活動を様々な学習場面での伝え合う力につなぐための方策を指導案に明記するようにした。

(例1)

6年 総合的な学習の時間 単元名～高齢者との交流会を開こう～

- 1回目の交流を進めた経験をもとに、2回目の交流を計画させることで、課題意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができるようにした。
- 2回の交流活動を設定することで、成功体験を味わうことができるようにした。
- 高齢者の気持ちを考えることができるようにするために、ゲストティーチャーの話を聞いたり、高齢者疑似体験をしたりする機会を設けた。
- 体験活動後の自己評価や話し合いの際の板書を工夫することで、話し合いを活発に行えるようにした。

(例2)

4年 国語科 単元名～アップとルーズで伝える～

- 豊かな体験活動を通して伝え合う力を育成するために

4年生では、豊かな体験活動として、花壇や畑を利用して、野菜や花の栽培活動に取り組んできた。栽培する物の選定に始まって、種をまき、苗を育て、花壇や畑に移し、水やりや草ひきをして生長に関わっていく中でどうすれば大きく丈夫に育てることができるか話し合い、家族に聞いたり、本で調べたりした。1学期末にはその経過をグループごとに画用紙一枚にまとめ、発表した。まとめる条件として①本で調べたその作物の特徴、②栽培するために注意したこと（家族に聞いたり、本で調べて）、③今後の栽培への願いの3つを上げた。

体験活動→体験のまとめ→発表という活動により、伝えるための視覚的な工夫（文字や写真・絵）、話し方の工夫（視線、声の大きさ）、位置取りの工夫（資料と自分と相手）等について話し合わせた。

この様な学習を積むことで、伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためには様々な工夫が必要であることに気づき、伝えることに興味を持って活動する子どもを育成した。

子どもたちには、様々な体験活動で実際に行ったことを、他の教科の授業に取り上げ、話し合い活動や、ポスター等に表して、友達や他の学年に知らせる活動を行った。自分で体験した活動であるため、具体的に話し合うことができ、また、人に伝えようとする意欲付け

にもなっていた。

(2) 主な体験活動

○ 地域伝承芸能「はやしだ」

- ①「はやしだ」の歴史や地域の取り組みについて保存会の方から話を聞き、継承することに意欲を持たせた。
- ②大胴・小調子・早乙女・歌（笛）・枝振り等の役割を希望によって分担し、自分の演技に責任を持たせた。
- ③さくら祭りやお田植え祭り等地域の行事に出演し、演技をした。地域の方々からの拍手や声援が次の演技への励みになった。
- ④6年生から5・4年生への引き継ぎ式を行ったり、5・4年生の練習で6年生が指導をしたりして次の学年に継承しようとする気持ちを育てた。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

校長・教頭の支援を受け、担任を中心に全校体制で推進した。今年度は校内研修のテーマにも体験活動を取り上げ、研修としても全校体制で取り組むようにした。また、「はやしだ」保存会のメンバー、学校評議員の協力を得て、学校支援委員会を構成し、地域の情報を集め、サポートに当たるようにした。地域の野菜作り名人を紹介していただいたり、体験活動の講師をお願いしたりするなど貴重な情報を得ることができた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動後には、感想や気づきを作文にまとめさせ、自己評価をさせるようにした。担任は児童の自己評価や活動の様子の観察をもとに、改善点などを話し合った。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

- 校内研修のテーマとして体験活動を取り上げて実践してきたために、子どもたちは体験し、自らが考えたことを総合的な学習の時間や生活科にとどまらず他の教科でも相手に伝え合うという学習に発展させることができた。その成果は、伝えたいことは何かということをより具体的に文章に表したり、話し合いの中で具体的な発言となって表れたりしてきている。
- 一年を通じて様々な体験活動に取り組むことによって、子どもたちの興味関心を持続することができるとともに次の活動への意欲づけとなっている。例えば、野菜作りでは、前の学年で栽培した経験を元に新しい野菜を育ててみたいという意欲となり、失敗した経験も世話の仕方の工夫となってきている。

(2) 課題

- 今年度は、校外に出て実施した体験活動があり、大きな成果があった。子どもの移動には町のバスを使い、運転手への謝金等は予算から執行することができたが、来年度以降予算措置がない中で校外に出るような活動は難しくなる。
- 体験活動のほとんどは生活科や総合的な学習の時間で対応してきた。総合的な学習の時間が削減されると、今年度のような充実した計画は難しい。
- どんな体験活動が仕組めるか、地域の方と協議する場を今後ももつ必要がある。